



Cisco UCS ハードウェア互換性レポートの管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [OS ベンダーおよびバージョンのタグ付け \(2 ページ\)](#)
- [ハードウェア互換性レポートの作成 \(3 ページ\)](#)
- [ハードウェア互換性レポートの同期 \(4 ページ\)](#)

概要

Cisco UCS のハードウェア互換性レポートでは、Cisco またはシスコ パートナー（あるいはその両方）によってテストおよび検証された、Cisco UCS のコンポーネントおよび設定に関する相互運用性情報を確認できます。レポートを実行し、現在のソフトウェア バージョンまたはターゲットのソフトウェア バージョンと照らし合わせてステータスを確認することができます。

ハードウェア互換性レポートでは、サーバのオペレーティングシステムの互換性がチェックされます。さらに、そのオペレーティング システムに関連付けられているアダプタ ドライバがチェックされます。

Cisco IMC Supervisor は、Cisco UCS ハードウェア互換性レポートツールと統合して、サーバ、ファームウェア、および関連コンポーネント（ストレージ、ネットワークアダプタ、VIC アダプタ）が特定のサーバモデル、OS ベンダ、バージョン、およびプロセッサの組み合わせでサポートされているかどうかに関する情報を提供します。



(注) Cisco UCS ハードウェア互換性レポート ツールは、Cisco C シリーズ/S シリーズ サーバでのみ使用可能です。

このツールの独立バージョンは <https://ucshcltool.cloudapps.cisco.com/public> から入手できます。Cisco IMC Supervisor コネクタは、このツールが公開する REST API を使用して互換性レポートを取得できます。

Cisco UCS ハードウェア互換性レポート ツールを使用するには、次の点を確認する必要があります。

- DNS が正しく設定されており、Cisco IMC Supervisor アプライアンスから URL <https://ucshcltool.cloudapps.cisco.com/> に到達できる。
- cisco.com のクレデンシャルを入力している。「[Cisco.com ユーザの設定](#)」を参照してください。

OS ベンダーおよびバージョンのタグ付け

ラック サーバには、オペレーティング システムのベンダーとバージョンでタグ付けする必要があります。次の手順で、システム レベル、ラック グループ レベル、またはラック サーバ レベルでサーバを選択して、サーバにタグを付けることができます。

手順

ステップ 1 [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

ステップ 2 [Rack Servers (ラック サーバ)] でラック サーバを選択するか、[Rack Groups (ラック グループ)] を展開してタグ付けするラック サーバを選択します。

ステップ 3 [Manage OS Tag For HCR (HCR の OS タグを管理)] をクリックします。

(注) OS タグは E シリーズ サーバには適用できません。

ステップ 4 ドロップダウンリストから [Operating System Vendor (オペレーティング システムのベンダー)] を選択します。

ステップ 5 ドロップダウンリストから [Operating System Version (オペレーティング システムのバージョン)] を選択します。

(注) OS ベンダーまたは OS バージョンがドロップダウンリストに表示されていない場合は、DNS が正しく設定されており、Cisco IMC Supervisor アプライアンスから URL <https://ucshcltool.cloudapps.cisco.com/> に到達できることを確認します。また、[Administration (管理)] > [System (システム)] > [System Tasks (システム タスク)] 画面にある [Synchronize Hardware Compatibility Reports (ハードウェア互換性レポートの同期)] システム タスクを手動で実行します。

ステップ 6 [送信 (Submit)] をクリックします。

(注) ラック サーバを選択して **[Delete OS Tag For HCR (HCR の OS タグを削除)]** をクリックし、作成したタグを削除できます。

ハードウェア互換性レポートの作成

タグを追加し、cisco.com クレデンシャルを入力したら、互換性レポートを生成できます。

始める前に

- レポートを生成する前に、cisco.comのクレデンシャルを入力していることを確認します。「[Cisco.com ユーザの設定](#)」を参照してください。
- ラック サーバにオペレーティング システム ベンダーとバージョンのタグを付けていることを確認します。「[OS ベンダーおよびバージョンのタグ付け \(2 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 **[Policies] > [Hardware Compatibility Report]** の順に選択します。

ステップ 2 **[+]** をクリックしてハードウェア互換性レポートを作成します。

ステップ 3 **[Select Profile (プロファイルの選択)]** フィールドにプロファイル名を入力します。

ステップ 4 **[Choose Server (サーバの選択)]** を展開し、設定を取得するサーバを選択します。

ステップ 5 **[検証 (Validate)]** をクリックします。

ステップ 6 **[送信 (Submit)]** をクリックします。

[Hardware Compatibility Report (ハードウェア互換性レポート)] 画面で、作成したレポートを確認します。ラック グループまたはラック サーバを選択し、**[Hardware Compatibility Report (ハードウェア互換性レポート)]** をクリックして、レポートを表示することもできます。

次のタスク

作成したレポートを選択し、**[Delete (削除)]**、**[Edit (編集)]**、**[Synchronize HCL Report(s) (HCL レポートを同期)]**、または **[View Status Details (ステータス詳細の表示)]** を選択できます。レポートでは、サーバがサポートされているかどうか、サーバに互換性があるかどうかが表示されます。コンプライアンスは次のいずれかの状態になります。

- 完全に準拠: サーバの OS ベンダー、バージョン、またはプロセッサと、その関連コンポーネントが完全にサポートされています。
- 部分的に準拠: いくつかのコンポーネントがサポートされていないことが検出されています。

- 非準拠: 準拠エラーが発生しているか、またはサーバと関連コンポーネントの特定の組み合わせが無効です。
- エラーまたは決定不能] 特定のサーバがタグ付けされていないか、またはバックエンドから応答を取得する際にエラーが発生しました。

ハードウェア互換性レポートの同期

[**Synchronize Hardware Compatibility Reports (ハードウェア互換性レポートの同期)**] システムタスクは毎週実行され、定期的にハードウェア互換性レポートをバックエンドと同期します。レポートを手動で同期するには、次の手順を実行します。

始める前に

- URL <https://ucshcltool.cloudapps.cisco.com> を設定します。
- Cisco.com のクレデンシャルを設定します。「[Cisco.com ユーザの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [Administration] > [System] を選択します。

ステップ 2 [System (システム)] ページで、[System Tasks (システム タスク)] をクリックします。

ステップ 3 [Rack Server Tasks (ラック サーバ タスク)] を展開し、[Synchronize Hardware Compatibility Reports (ハードウェア互換性レポートの同期)] を選択します。

ステップ 4 [Run Now (今すぐ実行)] をクリックします。

ステップ 5 [Submit (送信)] をクリックします。

- (注) [Hardware Compatibility Report (ハードウェア互換性レポート)] ページからレポートを手動で同期するには、[Synchronize HCL Report (HCL レポートを同期)] オプションも使用できます。
-